

人物白書

vol. 10

氏名 こんの だいち 金野 大地

所属部署 営業1部
大阪営業所

担当エリア 兵庫、大阪

お客さまに言われて嬉しかった一言

“来年も担当されますよね?”

担当したお客さまから信頼を得られたのかと思えた一言です。

【座右の銘】
勝つことは偶然じゃない
結果はどういう過程を
たどったかによるといこと

【出身地】
岩手県

【趣味】
エピソード
FPS
ファースト パーソン シューター
(First Person Shooterの略。
主人公が画面に登場せず、
その主人公の視点で描かれる
3Dのシューティングゲームのこと)



Message
お客さまへのメッセージ

困りごとの際は、
まずはJPRに一度連絡をください。
お客さまの課題、問題の解決に向けて
ご協力させていただきます。

【好きなもの】
FPS



【嫌いなもの】
長距離移動



【長所・ウリ】
人付き合いが悪くない



FOCUS

商品・サービスインフォメーション

10

Pallet Cover

梅雨時のおススメ ☂

パレットカバー

サイズ **21種** でジャストフィット

厚み: 0.03 or 0.05mm

Xシール型



高さ: 200~3000mm

幅: 200~1450mm

角形状の底



一般的な袋と異なり、底が箱に
沿うようにカットされています。

装着イメージ



フィットしやすく雨風の
影響を受けにくい!

column パレットカバーでジャストサイズな雨風予防を!

今回はパレット積みした商品にかぶせることで商品を守る、パレットカバーをご紹介します。通常の平袋と異なり、専用設計のパレットカバーは天井が角形状になっているのがポイント。積載貨物にフィットし、風雨やホコリから商品を守ります。厚みは30μと50μの2タイプ、耐久性にも優れており長く使えるので、低コストでエコな商品です。サイズのバリエーションも豊富で、さまざまなサイズのパレット積載品に対応可能。色も透明に加え黒色もありますので商品の識別、保全にも活用できます。また、天井部のホコリよけ、雨漏れ防止に特化した「天掛け用」もあり、自動包装機とのコンビネーションは抜群です。商品の保護にお役立ていただけるパレットカバーを一度試してみませんか。お気軽にお問い合わせください。

商品の詳細はこちらから



お客さまとJPRをつなぐ情報誌

月刊

JPR

デジタルとアナログの間をつなぐ。

VOL. 10
2019. Jun



紙に埋もれた物流現場を省力化 デジタルとアナログの間を 「つなぐ」存在に

昨年9月に、日本パレットレンタル株式会社（以下JPR）が流通業界の全ての紙伝票を電子化することで、業務効率向上、流通構造全体の標準化への貢献を目的に設立した株式会社TSUNAGUTE（以下ツナグテ）。同社の取り組み、および提供するサービスが実現する流通の未来像とはどのようなものなのか。ツナグテの春木屋悠人社長に話を聞いた。

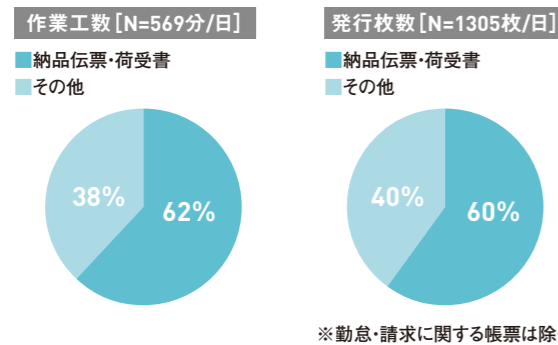


キーワードは「標準化」と「共有化」

JPRは、物流現場から重労働をなくすことを目的に、標準サイズのパレットを共同利用・共同回収することを推進してきた。国土交通省・経済産業省・農林水産省が呼びかける「ホワイト物流」の実現にも、パレットは欠かせない要素の1つだ。けれども皮肉なことに、レンタルパレットの利用が増えれば増えるほど、比例して増えてしまうものがある。それが、複写式のパレット伝票だ。伝票の発行、運用、管理にかかる事務的作業の負担を軽減し、データのリアルタイム性を向上させるために、パレット伝票の電子化サービスを昨年4月に開始した。現在約160拠点（テスト導入中企業も含む）に導入が進んでおり、2019年度内に全データの80%を電子化することを目指している。

しかし、物流現場において真の効率化を図ろうと思った時、パレット伝票以上に多く扱われている「紙」の問題は避けて通れない。その「紙」とは、商品伝票（納品伝票／荷受書）のことだ（図表1）。伝票の仕分や確認作業、

（図表1）物流現場における商品伝票に関わる作業状況について（東京地区にある配送業者にてツナグテ調査）



検索に担当者は多大な時間を労しているが、これは商品小口化、共同配送等によって管理業務の煩雑さが増大したことに起因していると考えられる。

荷主ごとに伝票が異なるため、印刷のたびに用紙を差し替えたり、伝票の仕分けが発生する。判取りにも時間がかかり、問合せがあった際は紙の山から探すところから始めなければならない。これらを解決するために、ツナグテは伝票運用効率化サービス（「統一伝票発行サービス」と「伝票検索サービス」）をリリースしているが、導入時に寄与する効果は高い（図表2）。

商品伝票の統一化（標準化）とデジタル化（標準化されたデータなら共有化ができる）を目指して活動しているのが、ツナグテなのである。

（図表2）作業にかかる時間が従来の65%カットできる見込み

	伝票印刷	伝票分割	エリア別仕分	ドライバー別仕分	
Before	—	69分	45分	199分	計313分
After	—	0分	8分	102分	計110分

作業不要

【基礎情報】下記条件での計測値
 荷主数：9社、伝票数：454枚/日、延車両数：52台/日

誰でも手軽に効率化を実現

JPRの源流を汲むツナグテは、「物流に携わる人々へ働きやすい環境を提供したい」という想いを持って事業を展開している。前述した紙伝票に関する伝票運用効率化サービスに加え、社会問題となっているドライバーの待機時間を削減することを目的に「入出荷予約受付サービス」、大きくこの2つのサービスを提供している（一部今後リリース予定・図表3）。

（図表3）伝票からつながるサービス



一見、伝票運用の効率化と入出荷予約システムは無関係のように見えるがそうでもない。予約システムを開発した背景には、伝票の運用が「サプライチェーンをまたぐ」ことにある。伝票の効率化には、伝票を発行する側だけでなく、伝票を受ける側の効率化も同時に考える必要がある。

予約システム（図表4）に着目したのは、昨今のドライバー不足を解決したいという思いも勿論あるが、予約と同時に伝票

の情報が着側に届くことで、事前に入荷準備ができ検品作業の簡素化、ドライバーの待機時間短縮にもつながるからだ。

（図表4）画面イメージ



「統一伝票発行サービス」「入出荷予約受付サービス」はそれぞれ大手3PL企業様、大手卸売企業様に既に導入いただいている。どちらも月額基本使用料は無料だ。無料提供の理由を、「一足飛びでデジタル化に到達できる企業様は少ないと思います。紙の運用は現場のフローにも深く組み込まれているため、伝票レスもすぐには実施するのは難しい。まずは、現状の紙を起点として、現場に寄り添った業務の効率化からステップアップしていくことが必要だと考えています。その第一歩を踏み出すお手伝いがしたいのです」と春木屋社長は語る。

「物流のデジタル化」という言葉を耳にする機会は多いが、どこから着手したら良いかわからない、AIや新しい機械なんてコストが高過ぎて導入できない、という声もよく聞く。ツナグテは、アナログとデジタルの間をつなぐ「どうやって？」を解決する存在でありたいと願っている企業だ。